

# 豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連	
<input type="checkbox"/> 有	
<input checked="" type="checkbox"/> 無	

## 1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	自主事業のPR事業							
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	文化会館	係	文化振興係	文化振興担当係長 加納 晃	
1-3 総合計画における施策の体系	節	教育文化 「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			基本施策	文化・芸術活動	コード	4 1 2
	項	生涯学習の推進			単位施策(中)	文化事業・イベントの充実	コード	4 1 2 1
					単位施策(小)	自主事業のPR	コード	4 1 2 1 3
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市民	意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		近隣にも数多くの文化ホールがあるが、市が主催する自主事業を地元で優れた音楽、演劇鑑賞の機会を提供し、市民の文化意識の高揚を図る。			
1-5 事務事業の内容	豊明市文化会館で自主事業として、優れた音楽芸術の鑑賞の機会を提供し、市民芸術への関心を高めるため、PRする。							

## 2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	年度	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握	市民ニーズの認識
		平成18年度	事業を市広報に掲載、チラシを作成し広報に折込、また市内公共施設の窓口にチラシを配置、地域のホムコ-ルに掲載周知した。	市の事業として、公演内容を出来るだけ多くの市民に提供するようにしているが、多くのジャンルの希望者が多い。
平成19年度				
平成20年度				
平成21年度				
平成22年度				
平成23年度				
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名	前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	自主事業の入場者数	7,450(人)	7,890(人)	自主事業(有料及び無料入場事業)11公演の入場者数を目標数値として設定 一公演平均定員797人×11公演=8,767人 前期 85% 後期 90%

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(入場者) 直接事業費 b(千円) 人件費 c(千円) 合計コストd (b+c) (千円) 単位コスト d/a (千円)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		入場者 当たり 0.7	7,028								
	3,026										
	2,345										
	5,371										
	当たり 0.7	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明

→ 直接事業費は、自主事業チラシ作成費、広告費の経費3,026千円を直接経費としている。人件費は、係担当の年度内の関わり(事務分担実績)から0.7人の0.5として平成18年度は算定した。6,702千円\*0.7\*0.5=2,345千円

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	7,028(人)									
	後期目標値に対する達成度(%)	89.1(%)									

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価		A									

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
  - B : 事務事業の実手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
  - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
  - D : 事務事業の廃止が相当

- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
  - 公共性(公が実施する意味があるか)
  - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
  - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
  - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
  - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	優れた芸術文化への期待と関心が高まる中、市民の期待する方向で推進する。	チケット販売率の向上と入場者数の増加	ある程度の入場者数を確保できているので、事業効果は現れている。
平成19年度				
平成20年度				
平成21年度				
平成22年度				
平成23年度				
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

		結果	審査会による改善方向の指示
4 - 1 総合評価の結果	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度		
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		